

令和8年度第1回小金井市放課後子どもプラン運営委員会

日 時 令和8年7月22日（水）午前10時30分～

場 所 前原暫定集会施設2階 B会議室

出席者 大熊教育長

前田委員長、森田副委員長、鈴木（哲）委員、堀井委員、鈴木（寛）委員、加辺委員、黒木委員、北脇委員、富永委員、武田委員、勝呂委員

濱松生涯学習課長、三浦図書館長、内野庶務課長、平田指導室長

欠席者 高橋委員、鈴木公民館長、久保田児童青少年課長、鈴木子育て支援課長

傍聴者 1人

1 開 会

【濱松生涯学習課長】始めさせていただきたいと思います。

皆さん、おはようございます。本日は、お忙しい中、令和8年度第1回放課後子どもプラン運営委員会に御出席いただきまして、ありがとうございます。本日は改選後1回目の会議となりますので、委員長が決まるまでの間、司会進行を務めさせていただきます生涯学習課長の濱松と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、これ以降、着座にて失礼いたします。

まずは、本日配付しております資料の確認をさせていただきます。机の上に、まず放課後子どもプラン運営委員会の次第、その次に委員名簿、次に、新規の委員の方のみに、昨年度の放課後子ども教室の実施報告書。その次に、放課後子ども教室の昨年度の実績、その次に、放課後子どもプランの運営委員会の設置要綱の新旧対照表、その次に、放課後の過ごし方ガイドブック、最後に、本日お配りいたしました教育長が作った資料をお渡ししてございます。資料の過不足等ございませんでしょうか。

【濱松生涯学習課長】もし会の途中で過不足等にお気づきになりましたら、事務局のほうにお申しつけください。

続きまして、本日の出席者、欠席者についてでございます。本日欠席の連絡をいただいておりますのは、青少年健全育成6地区連合会の高橋委員から欠席の御連絡をいただいております。そのほか行政側の委員として、公民館長の鈴木、児童青少年課長の久保田、子育て支援課の鈴木も、公務の都合上、欠席とさせていただきます。御了承ください。

(1) 小金井市放課後子どもプラン運営委員委嘱及び自己紹介

【濱松生涯学習課長】早速ではございますが、次第に従いまして進行を進めさせていただきます。

まず初めに、本日は、先ほど申し上げましたとおり、今年度第1回目、改選後最初の会議となります。机の上に、資料とは別に、本委員会の委嘱状を置かせていただいております。恐れ入りますが、本日こちらの配付をもって委嘱とさせていただきます。任期につきましては、本日7月22日から令和9年3月31日までとなっております。

続きまして、今年度の放課後子どもプラン運営委員会の自己紹介に移りたいと思います。各委員の皆様には、本日お配りしております名簿の順番に自己紹介をお願いしたいと思っております。お名前と推薦団体等、簡単な御紹介をお願いしたいと思います。

それでは、名簿の順番に従って、小金井市社会教育委員の鈴木委員からお願いいたします。

【鈴木（哲）委員】鈴木です。社会教育委員の会議から参りました。どうぞよろしくお願いいたします。

【濱松生涯学習課長】続いて、堀井委員、お願いいたします。

【堀井委員】小金井市民生委員児童委員の協議会から参りました堀井です。よろしくお願いいたします。

【濱松生涯学習課長】続いて、鈴木委員、お願いいたします。

【鈴木（寛）委員】小金井市青少年健全育成の6地区連合会から来ました。南小区域でございます。よろしくお願いいたします。

【濱松生涯学習課長】続いて、加辺委員、お願いいたします。

【加辺委員】皆さん、こんにちは。小金井市子供会育成連合会から今回参加させていただきました加辺です。どうぞよろしくお願いいたします。

【濱松生涯学習課長】黒木委員、お願いいたします。

【黒木委員】黒木鞠子と申します。小金井市子供会育成連合会より参りました。よろしくお願いいたします。

【濱松生涯学習課長】前田委員、お願いいたします。

【前田委員】特定非営利活動法人遊び・文化NPO小金井こらぼから推薦されて参りました前田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

【濱松生涯学習課長】続いて、北脇委員、お願いいたします。

【北脇委員】小金井市小中学校PTA連合会の北脇です。よろしくお願いいたします。

【濱松生涯学習課長】では続いて、富永委員、お願いいたします。

【富永委員】小金井市PTA連合会から参りました富永です。よろしくお願いいたします。

【濱松生涯学習課長】ごめんなさい、失礼いたしました。森田委員、お願いいたします。

【森田委員】NPO法人こども企画から参りました森田と申します。放課後子ども教室のほうは、もう10年以上にわたりましてコーディネーター、前原地区でコーディネーターを務めさせていただいています。また現在、放課後子ども教室実行委員長のほう

も務めさせていただいております。いろいろな視点から皆様といい運営委員会にできたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【濱松生涯学習課長】では、武田委員、よろしくお願いいたします。

【武田委員】小金井市立緑小学校の校長の武田です。小金井市は2年目になります。放課後の方々には、もう本当に毎日子供たちを見てくださって感謝しております。よろしくお願いします。

【濱松生涯学習課長】勝呂委員、よろしくお願いいたします。

【勝呂委員】東小学校副校長、勝呂です。よろしくお願いいたします。

【濱松生涯学習課長】三浦委員、よろしくお願いいたします。

【三浦図書館長】図書館長の三浦と申します。よろしくお願いいたします。

【濱松生涯学習課長】内野委員、よろしくお願いいたします。

【内野庶務課長】学校教育部庶務課長、内野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

【濱松生涯学習課長】では、平田委員、よろしくお願いいたします。

【平田指導室長】教育委員会指導室長の平田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【濱松生涯学習課長】皆様、ありがとうございました。

次に、事務局の担当者を御紹介いたします。

生涯学習係長の最所でございます。

【事務局】生涯学習係長、最所と申します。よろしくお願いいたします。

【濱松生涯学習課長】同じく生涯学習系の今泉でございます。

【事務局】生涯学習課生涯学習系の今泉です。よろしくお願いいたします。

【濱松生涯学習課長】自己紹介は以上で終わらせていただきます。

2 議 事

(1) 小金井市放課後子どもプラン運営委員会委員長及び副委員長の選出

【濱松生涯学習課長】それでは、議事に移りたいと思います。

まず初めに、小金井市放課後子どもプラン運営委員会設置要綱第5条第2項により、委員長の互選を行いたいと思います。直ちに議事に入ります。

議題は、委員長の互選についてでございます。委員長の互選につきましては、同項に、委員の中から互選することとなっております。選出の方法ですが、立候補または推薦による方法で行いたいと思います。どなたか立候補または推薦される方はいらっしゃいませんか。

お願いします。

【堀井委員】委員長に前田委員を推薦したいと思います。

【濱松生涯学習課長】ありがとうございます。ただいま前田委員を委員長に推薦する御発

言がありました。

お諮りします。前田委員を委員長にすることに御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

【濱松生涯学習課長】御異議なしと認め、前田委員に委員長をお願いしたいと思います。

それでは、ここで委員長と席を交代させていただきます。委員長、よろしくお願いいたします。

【前田委員長】ご選出いただきありがとうございます。前田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、次の議事に参りたいと思います。副委員長の選出となります。委員長と同じく、立候補または推薦による方法で行いたいと思います。どなたかいかがでございましょうか。

北脇委員。

【堀井委員】副委員長に森田委員を推薦したいと思います。

【前田委員長】皆様、御異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【前田委員長】それでは、森田委員に副委員長をお願いするということで、よろしくお願いいたします。

【森田副委員長】よろしくお願いいたします。

(2) 議事録の確認方法について

【前田委員長】それでは、続きまして議事の2番目、議事録の確認方法について、事務局よりお願いいたします。

【事務局】事務局です。議事録については、令和7年度の議題にて承認を得ている方法と同様に、メールにて委員の皆様へ送付し、問題がなければ、それをもって承認として、速やかにホームページに掲載をさせていただきたいと考えております。

以上になります。

【前田委員長】何か御質問はございますでしょうか。

なければ、早速、お諮り申し上げます。御異議はございますでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【前田委員長】異議なしと認めます。

(3) 小金井市放課後子どもプラン運営委員会設置要綱について

【前田委員長】それでは、議事の3番目、放課後子どもプラン運営委員会設置要綱について、事務局から説明を求めます。

【事務局】事務局です。本日、資料で小金井市放課後子どもプラン運営委員会設置要綱の新旧対照表を配付させていただきました。こちらは去年度1年間、こちらの運営委員会で話し合った内容を反映したものであります。

経緯としましては、現在、放課後子どもプラン運営委員会設置要綱に基づいて、この委員会を行っているところですが、要綱ができたのが平成19年であり、約20年間、要綱は大きく変わっておりませんでした。しかしながら、この間に、市民参加条例にはじまり、時代も変化し、要綱と実際の運営に齟齬が発生してきたことから、委員構成や任期などを是正するため話し合ってきたものであります。こちらの対照表を御確認の上、御不明点等ございましたら、事務局である生涯学習課に御連絡をいただければと思います。

以上になります。

【前田委員長】ありがとうございました。何か御質問等ございますでしょうか。

この要綱につきましては、令和9年度より公表したいと考えております。予算の手続上、9月、10月頃までには決定したいと考えておりますので、そのためには、次の会議に決を採りたいと考えております。皆様御確認の上、次の会議に御参加いただきますよう、お願い申し上げます。

(4) ワークショップ（子どもの豊かな放課後を目指して 大熊教育長より）

【前田委員長】それでは続きまして、議事の4番目として、グループワーク「子どもの豊かな放課後を目指して」ということで、教育長、どうぞよろしくお願い致します。

【大熊教育長】じゃあ、よろしくお願いいたします。子供が豊かに育つ地域をつくるためにという、今回要綱も改定されました。それで、新たな小金井モデルの創出に向けて、今日はキックオフという形で皆さんと一緒に考えたいなと思っています。その前に、今までの現状をちょっと確認したいと思います。

これはいろんなところで使わせてもらっているんですけど、文部科学省が今年度の行政説明で使った資料であります。ということは、文部科学省はこのことを事実として公表しているということです。どんなことがあるかということ、人口推計がこんなに変わりますよと、10年でこんなになっちゃいますよということを文科省がもう言っているということです。逆転ですね、若者が少なくなっていて、年寄りが増える。それから、外国人の方々がどのくらい増えるかということに関して、推計Aと推計Bが出てきたんですけど、2040年の推計Aは今の段階で超えている、もうこっちになるだろうというふうに文科省は言った。大変なことですね、10人に1人ということです。それからSDGsという観点では、本当にいろんなことが問題になっていて、日本もこのことについて考えなければいけないというふうになっているということです。

それから、一番驚いたのは、ChatGPTは2024年に、いわゆるIQが90

ぐらいだったと言っていたのが、今の段階ではIQは150ぐらいに達していると。一番重要なのは、これを文科省が言ったということです。それを認めたということです。150といたら、びっくりですよ、そういうことというのは。

あと、これも言われたのは、皆さんもう御存じかもしれないけど、フィルターバブル現象とかエコーチェンバーという。フィルターバブルというのは、自分が何か検索1回しちゃうと、そのことがどんどんどんどん入ってきて、まさにそれが事実のように入ってくるということです。そういうことが今起きているよということが、文科省が言ったということです。そういう事実を踏まえて、これから考えないといけない。つまり、身の回りにある情報は、自分が一度検索すると、それが次々に同じようなものが出てくる。僕の、検索サイトじゃなくて、いろんなところを見ていると、ほとんどが野外活動のグッズばかりが出てくるんですけど、なぜかなってよく分からないんですけど、そういうことが起きちゃっているのが事実です。

それから、機械的なジェネレーティブAIの能力というのが、作画とか作詞とか小説、ビジネス文書の作成、プログラミング等が、人間の能力にはるかに入ってきているという、これ、とんでもないことだというふうに思っているんです。でも考えてみたら、作画もすぐするできるようになっちゃったし、作曲もすぐできますよね。不登校の子が自分の歌を自分で作っている時代ですから、本当にこれは大変なことになっているということです。

それからもう一つは、これも大きな違いですよ、一般の会社人、会社に勤める人たちの10年以内に離職しているのが49%、そういうふうになっているのが現状であると、そういうことなわけです。今回資料に全部出ていますが、それで、このような社会情勢の変化にどのように対応するか、子供たちの育ちというのが重要になる。

もう一つ、ここに加えていかなきゃいけないのは、このことも事実でしょうと。これが共働き世帯ですよ、こっち側がいわゆる専業主婦、この差ですよ。2000年のところ、つまり僕が指導主事だったときは同じぐらい、50%ぐらいだったんですが、25年たって、こんなになっちゃったと。これを踏まえて施策を考えていかなきゃいけないということです。放課後子どもは、放課後子どもの充実というのは、家に帰ったらお母さん、お父さんがいた時代から、誰もいない時代になっている。そのときに放課後はどういうふうを考えなくてはいいかということです。

もう一つは、不登校の激増ということです。これまでが平たんだったと言えるぐらいですよ。ここへ来て、こんな増えているんですよ。なぜですか。これとされています。これとされているのが、コロナが人と人の関わりを切断したという、つまり、地域の中だけじゃなくて、地域のことはこれから問題にするわけなんだけど、学校でも隣の人と話しちゃいけませんよという、それが3年間続いたんです。ちょうど今の1年生が小さい頃から、公園に行っても隣の人と遊んじゃいけなかった時代です。

それを過ごして今、1年生が来ているんですね。それ、本当に考えているかなと、学校をよく見てみると、そういう現象というのがいっぱい起きている。

もう一つは、これは全国子ども会連合会から持ってきたんですけど、何が問題かというと、実数はどこで調べられるかというと、安全共済会の加入者人数というのがどこか一つと減っているんです。つまり、子供会に所属する子供たちがこんなに少なくなっているということです。本当に大丈夫ですかと。つまり、子供が育つには、家族だけで育てるということはもはや難しいし、子育てというのは家族だけでできるものではなく、斜めの関係、地域の大人の関係、近所のおじさん、おばさん、お姉さん、お兄さん、そういう人たちとの関係で子供たちは育っていく。別な言い方すると、親子の関係だけの価値観だけでは子供は育たない。様々な価値観の中でその子のよさを見つけてるのであって、親の価値観だけで育てていては、実は子供は豊かに育たない、ということなんだけれども、この現状から見ると、いわゆるコロナ禍以降ということじゃないんです、これを見ると。どんどん減っていく。そこで、考えてみました。地域が変わらなければ子供は育たなくなる、そういう現状があるんじゃないかと、そう思いませんか。

だからとにかく、それで何を考えたかというと、地域の子育てを復活させるというのを小金井から始めようじゃないか、それを小金井モデルという言い方をしたわけです。これ、変わらないと大変なことになるぞということです。

じゃあどういう風に変わったらいいのかということを皆さんと一緒に考えたいのですが、カードを配っていただきます。一番初めの10枚をちょっと見てください。放課後子どもの充実ということを考えたときに、課題を発見していかなきゃいけない。どんな課題がありますかということではなくて、この視点から考えたらどんなことがありますかというのを考えてもらいたくて、視点を10個示しました。一番初めが、現在の放課後施策は子供の育ち全体として最適化されているだろうか。いかがでしょうか。世の中がどんどん変わっていったときに、今の放課後の施策は子供の豊かな育ちになっているかなとって、課題を一つ一つ見つけてほしいんです。そしてその後に、付箋にそれを書いてもらいますから、思いついたところから付箋に、こういうことがあるぞとか、こういうことあるぞというのを、大きい付箋だと大変かもしれない、小さい付箋がいいかな。持ってきたので、小さい付箋を1人に1個ずつ渡しますので、100個ありますから、100個書いてください。だから、もうこれ見た瞬間に、思いついたのを書いてください。どうぞ、どんどんペンを走らせて。

次の課題です。これどうでしょう。放課後子ども教室、学童、地域未来塾等は一体的に機能しているか。それに課題があると思ったら、課題を書いてください。一体的に機能しているか。別な言い方をすると、子供視点でつながっているか。つながっていないと考えるんです、課題を見つけるんです。課題を書くんです。付箋1枚に1つ

の課題ですので、付箋がばらばらになっても分かるように、文章としてください。「つながっていない」って書いたのでは分からないです、ばらばらになりますからね。放課後子どもと学童の連携が図れていないと書かなきゃいけないわけですね。了解です。どんどこどんどこ書いてください。

次は、こんなのです。放課後は子供の成長につながっているか、豊かな遊びが実現できているか、学びがあるか、挑戦の機会があるか、交流の機会があるか、ゆっくり休める機会があるか。自分の手元に置いておいて……、ああ、いいですね。そのところ、どんどん貼っちゃってください。これはどうでしょう。

また、子供が自分で放課後の過ごし方を選べるか。新学習指導要領の中では、子供の主体性というのがとても言われています。「学びたい」が実現できているか、「遊びたい」が実現できているか、「運動したい」が実現できているか。それだけじゃないですよ、「1人で過ごしたいか」、これもあっていいと思っているんです。昨日本当に夜中に飛び起きちゃって、これ、一生懸命作っておりました。地域活動に参加したい等をかなえているか、「学びたい」をかなえているか、課題はないですか、どうですか、できていますかね。それから、子供が自分で放課後の過ごし方を選んでいるか。

【大熊教育長】地域の人材・資源全体を生かし切れているか、これは、ちょっと皆さん思うよね。いっぱい言われているんですよ、いろんな人に。あそこにいる人から言われていて、人材バンクつくらなきゃ駄目なんじゃないですか、ああ、そうだよ、入れています。入れました。保護者、シニア、職員、大学生、企業、大学、専門学校、図書館、公民館等、資源はいっぱいあります。それが生かし切れているか。

もう一回戻りますよ。今、子供たちを囲んでいる世の中全体がめちゃめちゃ変わっているときに、こういうことが変わっていかないと子供が育たなくなるということですよ。そのことについて課題、どう思っていますか、シニアを本当に生かしていますか、もっとあるだろうと。

それから、学校は放課後の地域拠点になっているか。いや、小金井だけは大変なんです、もう本当に空き教室がなくて。でも一応書きました。ないんですよ、ほかの地域は空き教室あるんですよ。小金井は特別教室、ないんですよ。全部教室に変わっちゃったんです。ですよ、校長先生。ないんです。そういう状況で教室を貸してくれてと言われても、ふだん子供が使っている教室しか、もう残っていないんです。だからこれをやるとしたら大変なことなんです。体育館、校庭、特別教室、図書館、図書室等は有効に活用できるかどうか、皆さん、どう思っていますか。

それからもう一つ、これが大事な視点で、中学校の部活動の地域展開が始まっています。未来塾も少しずつ出来上がってきています。小学校から中学校まで切れ目のない放課後を設計できているか。自分自身もあまりできていないと思っていますけど、

やっぱりそれを発信してもらうのは、この会からだろうと思うんです。どうですか。

それから、制度、自治体財源は持続可能となっているか。いつまでもボランティアに頼っていたんじゃ、持続可能にはなりません。どうやったらいいか、何が課題になっているか、現場にいる人しか分からないわけで、僕にもよく分からないんです、申し訳ないですけど。だから皆さんから声を上げていただいたやつを集約したいと思っています。

コーディネーターは今の感じでいいですか、地域協働推進委員は今の役割だけでいいですか。NPOは、民間は、大学は、財源は。だけど無料ばかりでやっているんじゃなくて、地域未来塾は一部有料化してもいいと僕は思っています。そのニーズはあると思います。僕はもっともっと、僕は一番苦手なのが英語をしゃべることなんですけど、東京学芸大学や法政大学、たくさんの海外からの学生さんたちがいて、ネイティブでいろんな言語をしゃべっている人たちがいっぱいいます。そういう人たちと子供たちの交流機会があってもいいでしょう。そのときに、その謝金は市が出してと言ったら、市は破綻します。だから、その学生さんたちが来るのは、地域の方がお金を出すというわけにはいかないの、そこに子供がワンコイン持ってくればかなえられてもいいじゃないかと、そういうシステムをつくってもいいんじゃないか、そんなふうに思っています。全部無料ばかりとは限りません。

放課後が地域の未来や子供の未来をつくっていけるか。いいですか、ここは書くのに相当、僕、勇気が要ったんです。学校だけで子育てが完成するとは思っていません。無理です、これだけの状況になったら。やはり放課後の子供の活動が充実することが重要です。多世代交流は学校に任せていてできますか、できないでしょう。保護者の交流はどうですか、地域の交流はどうですか、地域の愛着を育てるためにはどうしたらいいですか、地域貢献はどうやったらいいですか、地域の学校、大学を生かした探究、キャリア形成、自己決定の場、社会参画の場、ウェルビーイングを考えるのはどうやったらいいですか、こういう子供の未来をつくるための施策が学校で行われているか、そういう視点を考えていただきたいと思います。これから10分間、時間を取りますので、それぞれの視点で書いていただきたいと思いますというふうに思っています。

それでここを、10分たったら、模造紙に大きな円と四角い柵を書いてもらって、模造紙の外側に課題を書いて、その課題の一つを選んでもらって、原因追求と解決策を考える練習をしてもらう。出てきた課題をこれからのこの会議の課題に、委員長のほうで選択してもらって、一つ一つその原因追求と課題を解決して提案していただきたいのと、そんなふうに思っているところです。

—グループごとに話し合いを行う—

【大熊教育長】 すいません、時計を見ていただくと、予定の時間を3分過ぎている。ファ

シリテーターの力不足で最後まで行きませんでした。今回僕が皆さんと一緒にやりたかったのは、課題を発見してもらうことなんです。課題を発見してもらった後に、どうやったら原因追求できるかということを考えてもらって、その後に解決策を考えてもらうというカードもまたあるんですけど、もう一度言いますけど、今出してもらった課題を集約してもらって、どれを今度この会議で話し合ったらいいかをまとめて出してもらいます。その一つ一つに、今度は最初から原因追求のカードを使って原因を出して、解決策を立案し、それで最後に今回出された課題を精査し、原因追求、課題、政策案の出し方を参考にして、今後具体的に解決策を提案してほしい、ということなんです。今日は練習だったんです、練習だった。でも最後まで行かなくても僕はいいと思っていて、今出された状況でどんなことが出たか、これからここに出された課題を精査し、3つの班で出てきた課題をまとめて、どれが今一番解決しなきゃいけない問題かを出してください。すいません、委員長の責任、委員長と副委員長でその辺課題をまとめてもらうでいいですか。

【委員】異議なし。

【大熊教育長】それをこの次の回の議題にしてもらって、またカードが出てきて、原因を追求、今後どう考えていかななくてはいけないのか。

それでは、今までのグループの発表を1分ずつしていただけますか。どんなところまで話し合えたか。お願いします。1分ずつ。

【富永委員】課題もいろいろ出しまして、4つのグループに分けました。皆さんから出てきたものをまとめたら、システムに関するところ、子供のニーズに関するもの、あと人員の問題、人材の問題と、開催する場所、この4つが大きな課題だなというふうに分類されました。この中で、話合いの途中で終わりましたが、このチームでは取りあえず子供のニーズというものをもうちょっと深掘りしようというふうにしました。ニーズを把握しているかというものと、もし把握しているんだとしたら、そのニーズに合わせたものをちゃんと提供できているか、そういったところを話したいなというところで、今回はそこまでです。子供のニーズをちゃんとつかめているかというところを深掘りしたいねっていろいろ意見を出し合っているところで時間となってしまったんですけども、そういった感じでした。（拍手）

【大熊教育長】じゃあ、濱松班、お願いします。

【武田委員】うちはグループでやったときに、項目はボランティア、地域、親、広報、施設、お金、連携、子供の気持ちという8つに大きく分けました。その中でちょっと付箋が多かったところで、保護者、親のところを中心に考えようとしているところで終わっちゃいました。

【大熊教育長】どんなことが。

【武田委員】どんなところ。結局この保護者のところで、ちょっと話したところでは、課

題があることをみんな知っているかなというところで、自分事として考えている保護者の方は考えているけども、やっぱりそうじゃない人たちに対してどうしていくのかというようなことがありました。その問題が解決したら誰が喜ぶかというところで、子供なんだけども、それぞれの立場で喜ぶ人はいるだろうということも含めて、これから考えていければいいかなという感じです。

【大熊教育長】ありがとうございました。（拍手）

【勝呂委員】私たちの班で幾つか出てきたんですけれども、その中で比較的多く、また共通理解が少ないところとして、学校間格差というところについて、今日は練習も含めて話をさせてもらいました。主に課題の根本原因とその問題が起きる背景は何かというところで、放課後子ども教室等が始まっていった背景には、もともとあった地域の実情や、様々な放課後の子供たちの活動を担う人材がいる方々が集まってつくられてきた。そういった背景の中から、現在かなり学校間によって子供たちの受けられる支援が大分違ってきているというところが課題として挙げられました。ただ、そこで誰が一番困っているかというところについては今話し合っているところで、子供がどれくらい困っているかというところについては、まだまだちょっと話合いが深まらなかった、時間の関係でできなかったところもあったので、もう少し時間必要だったなと思いますけれども、練習として非常に深めることができました。

以上です。（拍手）

【大熊教育長】本当に今日は練習ということで、課題が抽出できたことが一番の目的でした。このことについて、これから委員長と副委員長がまとめてくださると思います。その題の一番、1つか2つになるかだと思いますけれども、今回出されたやつを一つのまとめとして一步進んでいけたらいいかなと、そんなふうに思うところです。

以上です。今日はありがとうございました。（拍手）

【前田委員長】ありがとうございました。

(5) その他

【前田委員長】このまま、立ったまま失礼します。

議事5番目、何かある方いらっしゃいましたら、挙手にてお願いします。

【鈴木（哲）委員】これ、言っちゃっていいですか。

【前田委員長】いいです。どうぞ。

【鈴木（哲）委員】前年度最終回に來させていただいて、お話伺ったんですけど、自分でメモしたところでサマリーをつくってみると、やっぱり人の問題と、それから場所の問題というところにフォーカスされるのかなという気がしたので、いろいろ調べていたら、こども家庭庁に、やっぱり同じような悩みのある自治体があって、それを集約した放課後児童対策に関する事例集というのがありましたので、これがリンクになっ

ていますので、もし何か資料として見たいなということであれば、どこかその辺の机の上に置いておくので、キャプチャーして帰ってください。

以上です。

【前田委員長】ありがとうございます。

3 閉 会

【前田委員長】ほか、何かございますか。

特にないようであれば、第1回の運営委員会をこれで終了したいと思います。御協力いただきまして、ありがとうございました。

――了――